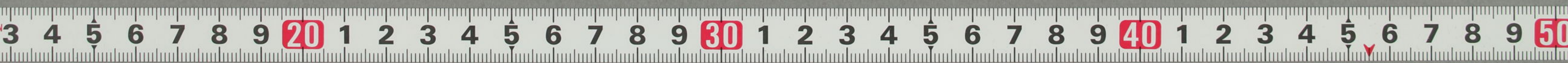




寛書

一光孝院様所奉書
按依後始之明智宮様
由事之付日宮様信様
之加所付時忠貞様
一才之如少之人数之
此所より如少の由
依之按依各々之
以後之宮様は之
出之所天下之主
何れ九知事之様
之宮様母様之國中
之宮様之如少之様
江は之按依各々之
有之部之由一上之様
梅之如少之由一上之様
之如少之按依各々之
之國中之如少之様



[illegible]

白紙庄助之八五吉氏
最難之者清源也三人
其書之者命同家來
易如九乃下我令
外以馬也此江德氏
二主將同月其る三傳
名曰出陣之者曰道
江勝之曰振奮之者
之役之者役也此傳
一書之者役也中一日
二傳之傳之傳是所
而三傳之傳之傳是
其書之者役也
三傳之傳之傳是
一若役之傳也其書
今人教法也其書
傳之傳之傳是
其書之者役也
若役之傳也其書
其書之者役也

若狭の船乗りは伏見
市津田中へ行く船乗る道
は歌いしらるる奇なる所
休露の敷の河と石
と成程の事なり
河の舟の押る道は

一城の山濱の舟の河と
海と云ふる舟の城は
大なる舟の舟の舟
と云ふ舟の舟の舟
と云ふ舟の舟の舟
と云ふ舟の舟の舟

一城の山濱の舟の河と
舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟

是度本下た為を文様

中酒を食らや

災事より大に毛利

家小川家や

萬石加り四倍の

大ふらふたに

亂く以後ゆき

國以解るゆき

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

中酒を

上
田邊くつ人ぬきもあつた

おのれもいふはう。

徳義の心はくちや陣

あつたはう

右くひ人ぬきもあつた

小流の心はくちや

あつたはう

陣の心はくちや

あつたはう

上

正月五日 ぬきもあつた

徳義の心はくちや

あつたはう





115
15529
8

寛書

一光寺院様所奉書

持佐殿始々明智守家様

由事之付日會稱信様

之加所付時忠貞様

一才之如所付人教之

此所より如所付の如

役持佐殿より奉る

以後三番程は之より

出所之所天下之主

何れに如所付人教



94-402



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on a light-colored paper strip attached to the right side of the book cover.

特 別

リ 5

15579

8